

授業科目 (科目ID)	外国語(英語) 22d151		担当教員 (実務経験)	長谷部 晃 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 大学病院で歯科医師として従事し、当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	歯科技工士として必要な英語を理解し、国際的な情報を得ながら対応できる能力を培う。				
到達目標	歯科に関する用語、特に基礎専門科目で使用する単語と簡単な内容を図・写真を用いながら述べることを目標とする。具体的には英語で書かれた説明書や簡単な歯科医学文献の概要を説明でき、また英語によるコミュニケーションの必要な患者との最低限の会話を可能とすることを旨とする。				
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科英語(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	55%	試験の結果だけでなく総合的に判断する。 配分としては、試験55%、提出物30%、その他として取組姿勢15%とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
その他	15%				
履修上の留意事項	教科書に準じて授業を進めるが、進度に応じて柔軟に対応する。文法的なことよりも、全員で教科書を音読、あるいは役割練習で英語を話すことにより英語に慣れることに重点をおく。恥ずかしがらずにできるだけ大きな声で音読しましょう。また歯科領域で重要な英単語を確実に覚えられるようにするため、1回目を除いてできるだけ毎回簡単な英単語の試験を実施する。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	Orientation なぜ「英語」が必要か Chapter 1 一般的な会話	歯科技工士として、英語を学ぶことがどのような意義を持つかを理解する。		
	2	知り合いとのあいさつ 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	あいさつは人と人とのコミュニケーションの基本である。基本的な英語での表現を習得する。		
	3	知り合いとのあいさつ 英単語確認小テスト、パソコンで「今日の英語」	あいさつは人と人とのコミュニケーションの基本である。基本的な英語での表現を習得する。		
	4	ホテルで急病になったとき 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	実際に海外に行ったときに起こり得る状況をイメージさせながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	5	ホテルで急病になったとき 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	実際に海外に行ったときに起こり得る状況をイメージさせながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	6	ショッピング 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	7	ショッピング 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	8	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	9	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	10	英語版アニメ映画DVD観賞(前半) 歯科英単語	英語版のアニメを観賞し日常会話の聞き取り練習をする。		
	11	英語版アニメ映画DVD観賞(後半) 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	英語版のアニメを観賞し日常会話の聞き取り練習をする。		
	12	英単語総復習 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	専門用語を習得する。		
	13	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
	14	海外の展示会に参加する 歯科英単語、パソコンで「今日の英語」	その場をイメージしながら、基本的な会話パターンおよび簡単な専門用語を習得する。		
15	英語学習用DVD観賞 名作アニメで英会話	英語版のアニメを観賞し日常会話の聞き取り練習をする。			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科技工学科

授業科目 (科目ID)	歯科技工造形学 22d152		担当教員 (実務経験)	倉光 綾香 歯科技工所に歯科技工士として従事しており、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	歯科技工に必要な美的感覚(色彩・形態)を養う。					
到達目標	デッサンの方法、造形表現や色彩および立体造形の基本を説明し、歯のデッサンおよび自画像スケッチなどを製作することができる。					
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科技工造形学(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	小テスト40%、提出物60%とする。			
	レポート	%				
	小テスト	40%				
	提出物	60%				
	その他	%				
履修上の留意事項	提出物は提出期限を守ること					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	3章 歯の形態の表現	デッサンの方法			
	2	3章 歯の形態の表現	デッサンの方法			
	3	1章 美とは 2章 歯の観察に至るまで	見ることのメカニズム 錐体、杆体			
	4	6章 歯科技工と色彩	色彩の基本 演色性 色の三属性			
	5	6章 歯科技工と色彩	マンセルシステム 同時対比			
	6	5章 顔の観察	自画像スケッチ(骨格形態からのスケッチ)			
	7	5章 顔の観察	自画像スケッチ			
	8	5章 顔の観察	自画像スケッチ			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科技工学科

授業科目 (科目ID)	コミュニケーション学 22d153		担当教員 (実務経験)	高野 文子 歯科衛生士、また装道礼法講師であり、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	医療従事者として必要な思考力を育て、豊かな人間性を養うと共に主体的な行動できる態度を培う。					
到達目標	自らを知り他者を敬い、さまざまな問題について討議することができ、医療従事者医療人として相応しい身だしなみや接遇の表現ができる。					
テキスト・参考図書等	プリント等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポート50%、提出物10%、その他としてプレゼンテーション40%とする。			
	レポート	50%				
	小テスト	%				
	提出物	10%				
	その他	40%				
履修上の留意事項	レポート、提出物は提出期限を守ること					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	人間関係が楽になる方法	人間関係がつかなくなる理由、心はどうやってつくられるのか、思い込みとは何か、無意識の領域、コミュニケーションとパターン、コミュニケーションの重要性。			
	2	なりたい自分になる	スタートアップ・ワーク、自分の価値基準と優先順位を知る、思い込みの種類、マイナスの思い込み、思い込みを変える方法。			
	3	コミュニケーションの目的	コミュニケーションの目的、自分を守るためのコミュニケーション、話すだけでは伝わらない、どんな人の話を聞きたいのか、言葉のキャッチボール、前提となる姿勢。			
	4	コミュニケーションの面白さ	正確に伝える難しさ ミスコミュニケーションの原因 ミスコミュニケーションの防止、エンパシーの姿勢、シンパシーの姿勢。			
	5	接遇表現<1> 相手を尊ぶ、挨拶	相手を尊ぶ挨拶、挨拶は何のためにするのか、挨拶の基本、表情、視線、声かけ、自分を整える、信頼感を得る身だしなみ。			
	6	接遇表現<2> 相手を尊ぶ、立ち振る舞い	相手を尊ぶ姿勢、態度、所作、立礼、お辞儀の種類と仕方、上座、下座、正中の考え方、立ち方、座り方、入退室の仕方、受け渡し方。			
	7	接遇表現<3> 相手を尊ぶ、話し方と言葉遣い	敬語とは何だろう、敬語の種類を知ろう、TPOに応じた使い分け、クッション言葉と婉曲表現。			
	8	社会人のコミュニケーション	組織とは何か、指示・命令の受け方、報告・連絡・相談の仕方、質問の仕方、メモの取り方、失敗時の対応。			
	9	社会人に必要な自立型の姿勢	人間の2大欲求、自立型姿勢の特徴、自立型と依存型、自立型人間と依存型人間の特徴、自立の定義、プラス受信自立型姿勢の6原則、自立型問題解決法。			
	10	医療倫理	医療倫理の四原則、法令等順守、患者中心の医療、インフォームド・コンセントとは、説明義務、インフォームド・コンセントの成立要件、インフォームド・コンセントの相手を知る。			
	11	医療コミュニケーション実践	信頼関係を築くコミュニケーションスキル(承認のスキル・傾聴のスキル・傾聴の留意点) 質問の効果、質問のスキル、他職種とのコミュニケーション、他職種連携とチームワーク、場面別シミュレーション。			
	12	アサーション/モラル・ジレンマ	アサーションとは何か、三つの自己表現、アサーティブな自己表現の仕方、モラル・ジレンマとは何か、モラル・ジレンマからの学び、医療現場のモラル・ジレンマ。			
	13	自分を知る	自分を知る五つの意義、二つの魅力(美点と欠点)、自己紹介と他己紹介、性質と性格、人から見た自分、棚卸しシートの作り方と見方、感情と行動からの自己探求、自分らしい選択。			
	14	「思い」の伝え方	プレゼンテーションの目的、相手の心に響くプレゼンテーション、共感、感動、共感と感動のつくり方、プレゼンテーションの仕方。			
15	プレゼンテーションの実践	学生プレゼンテーション発表 アドバイス				

授業科目 (科目ID)	関係法規 22d154	担当教員 (実務経験)	岡村 敏弘 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 大学病院で歯科医師として幅広い分野に従事し、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	法の概念と体系、衛生行政を把握し、歯科技工士として必要な法令について学ぶ。				
到達目標	法律の概要を理解し、歯科技工士法の目的やまつわる法的意義を述べることができる。				
テキスト・ 参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	試験100%により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	法規には、難解な表現もあるため予習や復習に努めること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	10章 衛生行政	法律の概要 衛生行政の意義		
	2	10章 衛生行政	組織と活動		
	3	11章 歯科技工士法	目的 用語の定義 免許		
	4	11章 歯科技工士法	名簿 試験		
	5	11章 歯科技工士法	業務 歯科技工指示書		
	6	11章 歯科技工士法	歯科技工所		
	7	11章 歯科技工士法	違反行為と罰則		
	8	12章 歯科医療関係法規	医療法 歯科医師法 歯科衛生士法		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科技工学科

授業科目 (科目ID)	歯科技工学概論 22d155		担当教員 (実務経験)	原口 直子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として歯科疾患を把握し治療に従事し、当該科目の教育を行う。別紙1参照		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)		15	時間数	30時間
授業目的	歯科医療と歯科技工の概念および倫理を学ぶ。					
到達目標	医療の目的や、チーム医療、業務内容、必要な倫理、業務実施に必要な運営・管理、作業環境、健康管理について説明することができる。					
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	試験100%により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	授業中の入退室禁止。 携帯は机上に出さないこと。 試験には関連資料からも出題する。(授業で説明したものに限る)					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	1章 歯科医療と歯科技工	医療と歯科医療 歯科技工学			
	2	2章 歯科技工士の役割	歯科技工士教育 国家試験 諸外国制度			
	3	2章 歯科技工士の役割	倫理 現状			
	4	3章 顔および口腔組織の形態と機能	顔の形態と機能			
	5	4章 歯科疾患と周囲組織の変化	歯の異常 硬組織疾患			
	6	4章 歯科疾患と周囲組織の変化	歯周組織疾患			
	7	4章 歯科疾患と周囲組織の変化	歯科疾患の現状			
	8	5章 歯科臨床と歯科技工	硬組織疾患・歯の欠損・歯周病と歯科技工			
	9	5章 歯科臨床と歯科技工	歯列不正・口腔外科疾患・顎関節症・スポーツ歯科と歯科技工			
	10	6章 歯科技工の管理と運営	歯科技工の作業環境			
	11	6章 歯科技工の管理と運営	歯科技工業務の運営			
	12	6章 歯科技工の管理と運営	歯科技工における衛生管理			
	13	7章 口腔と全身の健康管理	健康政策 在宅医療 災害時歯科医療			
	14	7章 口腔と全身の健康管理	歯ブラシによるブラッシング			
15	7章 口腔と全身の健康管理	デンタルフロスによる清掃 歯間ブラシによる清掃				

授業科目 (科目ID)	歯科技工学概論 22d155	担当教員 (実務経験)	岡村 敏弘 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 大学病院で歯科医師として幅広い分野に従事し、当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	1年・前期	担当教員	石井 友和
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科技工士として歯科大学病院に勤務し、当該科目の教育を行う。
		担当教員	田中 聖一
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科技工士として国内外の歯科技工所に勤務し、当該科目の教育を行う。
		担当教員	倉光 綾香
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科技工士として歯科技工所で歯冠修復部門などに従事し、当該科目の教育を行う。
		担当教員	佐々木 英世
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科技工士として歯科技工所で歯冠修復部門などに従事し、当該科目の教育を行う。
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	口腔解剖学 22d156		担当教員 (実務経験)	杉田 昭子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として業務に従事し、当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	歯の概説・形態を十分に理解し、歯の発生、加齢、歯周、頭蓋の骨及び口腔周囲の筋について学ぶ。 また、顎関節の構造や下顎の運動について学ぶ。				
到達目標	口腔・顎顔面療育の形態、なかでも個々の歯の形をよく理解し歯や口腔・顎顔面領域全般のはたらきを説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学(医歯薬出版) 歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻(歯科技工学実習トレーニング) カービングガイド				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	試験100%により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	要点はすべて板書するので、ノートをきちんととること。 毎回小テストを実施する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	1章 歯の概説	歯の定義 機能 生物学的特性 植立様式 外形と内形		
	2	1章 歯の概説	種類と分類 記号と歯式 名称		
	3	1章 歯の概説	形の概説(鑑別)		
	4	2章 永久歯 1. 切歯	上下顎中切歯 側切歯 相違		
	5	2章 永久歯 2. 犬歯	上下顎犬歯 相違		
	6	2章 永久歯 3. 小臼歯 上顎	上顎第一小臼歯 第二小臼歯 相違		
	7	2章 永久歯 3. 小臼歯 下顎	下顎第一小臼歯 第二小臼歯 相違		
	8	2章 永久歯 4. 大臼歯 上顎	上顎第一大臼歯 第二大臼歯 後方推移		
	9	2章 永久歯 4. 大臼歯 下顎	下顎第一大臼歯 第二大臼歯 後方推移		
	10	3章 乳歯 1. 乳歯の機能と特色	大きさ 歯冠 歯根 組織学		
	11	3章 乳歯 2. 乳切歯 3. 乳犬歯	上下顎乳中切歯 乳側切歯 乳犬歯		
	12	3章 乳歯 4. 乳臼歯	上下顎第一乳臼歯 第二乳臼歯		
	13	4章 歯の発生	細胞と組織の発生と構造 歯の発生 歯の萌出と脱落		
	14	5章 歯と歯周組織 1. 歯の組織	エナメル質 象牙質		
15	5章 歯と歯周組織 1. 歯の組織	セメント質 歯髄			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	5章 歯と歯周組織 2. 歯周組織	歯根膜 歯槽骨
	17	5章 歯と歯周組織 3. 歯や歯周組織の加齢現象	歯肉 歯と歯周組織の加齢現象
	18	6章 歯の異常	歯数・大きさの異常 重複 歯冠・歯根の異常 色調・萌出・歯列弓の異常
	19	7章 歯列・咬合	歯列 歯列弓 咬合彎曲 臨在歯との関係 上下歯列弓の位置関係 切歯の咬合関係 歯の植立
	20	8章 頭蓋の骨 1. 脳頭蓋骨	脳頭蓋と鼻腔の周囲の骨
	21	8章 頭蓋の骨 2. 顔面頭蓋骨	口腔周辺の顔面筋と咀嚼筋の付着部となる骨
	22	8章 頭蓋の骨 3. 頭蓋の全景	頭蓋冠 側頭部 頭蓋底 眼窩 鼻腔と副鼻腔
	23	9章 口腔周辺の筋 1. 浅頭筋	眼輪筋 口輪筋 頬筋 口角結節
	24	9章 口腔周辺の筋 2. 深頭筋	咬筋 側頭筋 外側翼突筋 内側翼突筋
	25	9章 口腔周辺の筋 3. 舌骨筋群	舌骨上筋・下筋群
	26	10章 顎関節	構造 下顎の運動
	27	11章 口腔 1. 口腔の隣接器官 2. 口腔 3. 口蓋	鼻腔 口腔前庭 固有口腔 口唇と頬 口蓋
	28	11章 口腔 4. 唾液腺	大唾液腺 小唾液腺
29	11章 口腔 5. 舌	舌乳頭 味蕾 舌腺 舌筋	
30	11章 口腔 6. 咽頭と喉頭	咽頭 喉頭	

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科技工学科

授業科目 (科目ID)	口腔解剖学実習 I 22d157		担当教員 (実務経験)	田中 聖一 歯科技工士として業務に従事し、当該科目の教育を行う。 別紙1参照	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	歯形彫刻実習の目的、使用器具・材料を理解し、デッサンや彫刻方法について習得し、各歯種における形態の特徴を学ぶ。				
到達目標	個々の歯の形態の特徴をとらえながら、それぞれ決められた時間内で彫刻することができる。				
テキスト・ 参考図書等	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学(医歯薬出版) 歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻(歯科技工学実習トレーニング) カービングガイド				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	実技試験による外形、溝、表面性状、寸法などによって評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	身だしなみを整え、正しい姿勢で臨むこと。 怪我をしない、またはさせないように注意すること。提出物は提出期限を守ること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	実習説明 上顎中切歯・デッサン・角柱	実習の目的 使用器具・材料 計測		
	2	上顎中切歯・彫刻	外形彫刻		
	3	上顎中切歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	4	上顎犬歯・デッサン・角柱	外形彫刻		
	5	上顎犬歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	6	上顎第一小臼歯・デッサン・彫刻	外形彫刻		
	7	上顎第一小臼歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	8	上顎第一大臼歯・デッサン・彫刻	外形彫刻		
	9	上顎第一大臼歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	10	下顎第一大臼歯・デッサン・彫刻	外形彫刻		
	11	下顎第一大臼歯・彫刻	細部彫刻 完成		
	12	下顎第一小臼歯・彫刻	90分で彫刻		
	13	下顎第二小臼歯・彫刻	"		
	14	下顎第二大臼歯	"		
15	上顎第二大臼歯	"			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	上顎側切歯	〃
	17	上顎第二小臼歯	デッサン20分 彫刻60分 修正10分
	18	下顎犬歯	〃
	19	上顎中切歯	〃
	20	上顎犬歯	〃
	21	上顎第一小臼歯	〃
	22	上顎第一大臼歯	〃
	23	下顎第一小臼歯	〃
	24	下顎第二小臼歯	〃
	25	下顎第一大臼歯	〃
	26	上1 下6	45分で1本ずつ彫刻
	27	上3 上5	〃
	28	上4 下4	〃
	29	上6 下6	〃
30	上1 下5	〃	

授業科目 (科目ID)	顎口腔機能学 22d158		担当教員 (実務経験)	後藤田 章人 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 大学病院で歯科医師として従事し、当該科目の教育を行う。		
	対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)		8	時間数	16時間
授業目的	顎口腔系器官の構造と機能、下顎位および下顎運動に関する生理学的知識について学ぶ。					
到達目標	顎口腔系の機能の基礎を述べることができるとともに、咬合器やフェイスボウの取り扱いができる。					
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 顎口腔機能学(医歯薬出版) 新編注解 国家試験問題集 顎口腔機能学(医歯薬出版) 歯科技工別冊 目で見る咬合の基礎知識(医歯薬出版) 臨床咬合学、補綴臨床に必要な顎口腔の基礎知識(学研書院)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	試験100%により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	歯科技工士が仕事をするうえで必要な顎口腔機能の基礎と臨床における最低限の知識を学ぶものであるので予習、復習をその都度行うこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	1章 顎口腔系の形態	歯と歯列 顎口腔系を構成する骨・筋 顎関節 神経			
	2	2章 顎口腔系の機能	基準点・基準面 咬合に関する平面			
	3	3章 下顎位	咬頭嵌合位 中心位 下顎安静位 偏心咬合位			
	4	4章 下顎運動	基本運動 限界運動			
	5	4章 下顎運動	機能運動			
	6	5章 歯の接触様式	咬頭嵌合位・偏心位における咬合接触 咬合干渉			
	7	6章 咬合器	機構と分類 フェイスボウトランスファー 咬合採特 使用手順			
	8	7章 咬合検査と顎機能障害	検査法 顎機能障害と対応			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	歯科理工学 22d159		担当教員 (実務経験)	近藤 清一郎 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 別紙1参照		
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	35	時間数	70時間
授業目的	歯科技工に使用する材料の歯科理工学的性質・安全性・品質検査及び歯科技工に必要な機器の知識と加工技術を習得する。					
到達目標	材料の機械的性質と物理的性質、生体材料に要求される化学的・生物学的性質を理解し、それぞれの材料を正しく使用できる。					
テキスト・参考図書等	最新歯科技工士教本 歯科理工学 (医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	試験100%により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	歯科理工学はまだ歯科技工の実際を体験していない学生にとっては関連が実感できず理解しにくい一面があるが、知り、学び、理解することにより納得することができるという考えのもとで学ぶこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	1章 歯科技工と歯科理工学	歯科理工学の意義と目的 材料の果たす役割 歯科技工の安全性と環境			
	2	2章 歯科材料の性質 1. 物質の構造	原子間結合 材料の種類と性質			
	3	2章 歯科材料の性質 2. 機械的性質	応力とひずみ 弾性変形と塑性変形 応力-ひずみ曲線 展性と延性			
	4	2章 歯科材料の性質 2. 機械的性質	曲げ強さ 疲労限 衝撃強さ クリーブ 粘弾性 硬さ			
	5	2章 歯科材料の性質 3. 物理的性質	密度と比重 熱膨張係数 熱伝導率			
	6	2章 歯科材料の性質 3. 物理的性質	熱可塑性 比熱 蒸発熱と融解熱 光の屈折と反射			
	7	2章 歯科材料の性質 4. 化学的性質	腐食と変色 溶解性 吸水性 接着性			
	8	2章 歯科材料の性質 5. 生物学的性質	生体安全性の評価 生体反応			
	9	3章 印象と模型製作 1. 印象材	印象材の分類 種類			
	10	3章 印象と模型製作 1. 印象材	一般的性質 印象材と模型材との関係			
	11	3章 印象と模型製作 2. 模型材	石膏の種類 一般的性質			
	12	4章 原型製作	歯科用ワックスの種類と用途 組成 性質 ワックス以外の原型材料			
	13	5章 レジン成形 1. 義歯床用レジン	義歯床レジン 加熱重合レジン 常温重合レジン			
	14	5章 レジン成形 1. 義歯床用レジン 2. 義歯床関連材料	その他の義歯床レジン 填入・成形法 人工歯 硬軟質義歯裏装材			
15	5章 レジン成形 3. 歯冠用硬質レジン 4. その他のレジン	歯冠用硬質レジンの組成・性質・金属との結合 CAD/CAM用コンポジットレジンの種類と組成 その他のレジン				

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	6章 セラミック形成 1. 歯冠用セラミックス 2. 長石系陶材	種類 性質 組成 築盛 焼成
	17	6章 セラミック形成 3. 金属焼付用陶材 4. 加熱加圧型セラミックス	陶材と貴金属・非貴金属の結合 焼付用陶材と焼付用合金 成分 成形法
	18	6章 セラミック形成 5. ジルコニア 6. その他のセラミックス材料	種類 成形法 焼成・ロストワックス・機械加工で製作するセラミックス
	19	7章 金属成形 1. 歯科用合金	所要性質 種類と用途 組成と添加元素の役割
	20	7章 金属成形 2. 金合金	所要性質 種類と用途 組成と添加元素の役割
	21	7章 金属成形 3. 銀合金 4. コバルトクロム合金	種類と用途 組成と添加元素の役割
	22	7章 金属成形 5. チタンおよびチタン合金 6. ステンレス鋼	組成
	23	7章 金属成形 7. 鑄造	鑄造理論 埋没材 埋没操作 鑄型の加熱
	24	7章 金属成形 7. 鑄造	鑄造操作 鑄造欠陥 適合不良
	25	7章 金属成形 8. 金属の加工	金属の塑性加工と硬化 歯科用CAD/CAM
	26	7章 金属成形 9. 金属の接合	種類 鋲付け 鋲付け法 溶接 鋲接
	27	7章 金属成形 9. 金属の接合	鋲付け法 溶接 鋲接
	28	7章 金属成形 10. 合金の熱処理	軟化熱処理 硬化熱処理
	29	8章 その他の歯科材料 1. 合着材・接着材	従来型セメント 接着性レジンセメント
	30	8章 その他の歯科材料 2. 成形修復物 3. インプラント材料	アマルガム コンポジットレジン グラスアイオノマーセメント インプラント材料
	31	9章 補綴装置と修復物の仕上げ 1. 意義と目的 2. 成形体の仕上げ 3. 機械研磨 4. 化学研磨	審美的・生物学的・口腔衛生的・化学的意義 切削・研削・研磨 電解研磨
	32	9章 補綴装置と修復物の仕上げ 5. 圧延による表面仕上げ 6. 材料添加による表面仕上げ	レジン・陶材の表面仕上げ
	33	9章 補綴装置と修復物の仕上げ 7. 研磨効率 8. 器械・器具 9. 補綴装置と修復物の研磨方法	マイクロモーター 電気エンジン レーズ他
	34	10章 新しい加工技術	CAD/CAM
	35	11章 補綴装置と修復物の安定性	レジン・セラミックスの機械的・物理的・化学的性質の安定性 イオン化傾向

